

石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター

事業報告書

第 10 卷

令和 5 年度

石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター

巻 頭 言

令和 6 年 4 月より、医師の働き方改革の新制度が施行されます。それに伴い医療現場では、タスクシフト/シェアが推進されています。また、団塊の世代が 75 歳以上となる令和 7 年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築も進められています。このような医療・介護現場を実現するためには、質の高い看護を、場を問わず提供できる体制にすることが必要です。その策として、チーム医療を推進し、厚生労働省は看護師がその役割をさらに発揮するため、「特定行為に係る看護師の研修制度」が 2015 年 10 月より開始しています。しかし、令和 5 年 3 月で全国の特定行為研修を行える指定教育機関数は 360、研修修了者も 6875 人です。石川県においても令和 5 年 2 月で特定行為研修を行える指定教育機関数は 6、研修修了者も 87 人であり、地域に必要な教育体制や人数が整っているとはいえません。

そこで、石川県に限らず富山県、福井県に開講を希望する認定看護師教育課程の調査をし、令和 6 年度より特定行為研修を含む「皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程」を開講することとなりました。ただし、開講にあたっては準備が必要です。当センターは開設して 10 年を迎えましたが、特定行為研修と皮膚・排泄ケア認定看護師のいずれも初の教育となります。特に、特定行為研修は本学には附属の医療機関がないことより、実習はすべて学外の医療施設に協力機関となっていていただく必要がありました。この皮膚・排泄ケア認定看護師に求められる特定行為は、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連の 2 行為と、創傷管理関連の 2 行為です。特に、創傷管理関連の「創傷に対する陰圧閉鎖療法」は医療機関であっても実施されている施設が少なく、北陸 3 県の医療施設には多大なるご支援をいただきましたが、厚生局のご指導によりそれ以外の県の医療機関にも協力施設としてご承諾いただきました。この実習以外にも多くの医療機関より講師の派遣や、認定看護師教育の実習施設としてご承諾いただき、開講準備を終えることができました。ご支援、ご協力くださいました皆様に、心よりお礼も申し上げます。

本看護キャリア支援センターは、これからも社会における責務を果たすために、保健医療従事者のキャリア支援を行ってまいります。今後ともご支援を賜りますれば幸甚に存じます。

石川県立看護大学
附属看護キャリア支援センター長
紺家 千津子

目 次

(ページ)

I. 皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程（B課程）開講準備	1-9
1. 開設の目的	1
2. 教育機関申請と認可実施状況	1
3. 入試説明会の開催実施内容	2
II. 認定看護師教育課程フォローアップ研修	17-18
1. 目的	17
2. 日時・参加者	17
3. 実施内容	17
4. 評価	18
5. 今後の課題	18
III. 専門的看護実践力研修事業「看護管理者研修」	19-21
1. 目的	19
2. 定員および研修方法	19
3. 実施状況	19
4. 実施内容	19
5. 評価および今後の課題	20
IV. 専門的看護実践力研修事業（分野別実践看護師養成研修）「皮膚・排泄ケア」	22-25
1. 目的・目標	22
2. 実施状況	22
3. 実施内容	22
4. 評価	23
V. 石川県看護教員現任研修	26-30
1. 目的・目標	26
2. 実施状況	26
3. 実施内容	27
4. 評価	29
VI. 地域貢献	44
1. 各機関からの依頼による派遣事業	

I. 皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程（B 課程）開設準備

1. 開設の目的

附属看護キャリア支援センターでは、感染管理分野ならびに認知症分野の認定看護師教育課程をこれまで開設してきた。分野については本学と石川県健康福祉部の2つの調査結果を基に協議して選定してきたが、令和3年度に北陸3県を調査した本学と、石川県のみを調査した石川県健康福祉部の結果で、いずれも皮膚・排泄ケア認定看護師の教育課程を望んでいることが明らかとなった。その背景には、認定看護師教育課程は日本看護協会が認定しているが、複数ある分野の中で最初にこの皮膚・排泄ケア（認定時はWOC看護）分野が平成9年に設置された。しかし、石川県内病院での皮膚・排泄ケア認定看護師の配置率は91施設中18施設で約2割弱、かつ平成10年代に資格を取得した皮膚・排泄ケア認定看護師は定年を迎える時期に近づいてきている。

このような現状でありながら、石川県は後期高齢者人口の増加に伴い、今後さらに褥瘡の予防や、がんの罹患によって造設されたストーマ（人口肛門・人口膀胱）周囲皮膚トラブルの予防やケアが重要となってくる。加えて、皮膚・排泄ケアは、全病院（全診療科）で共通して必要な分野でもある。しかしながら、現時点で「皮膚・排泄ケア」を受講する場合、特定行為研修を含むB課程は東京、静岡、東京の3校、特定行為研修を含まないA課程は福岡の1校のみで、開校数が少ない上に近隣には存在しない。

そこで、これらの課題解決のために本学の附属看護キャリア支援センターは、令和6年度に皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程を開講することとした。

2. 教育機関申請と認可

令和5年4月に、皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程の開設準備のため特任講師を配置した。皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程（B課程）規定および細則の策定、カリキュラムの構築と講義担当教員（非常勤講師を含む）や実習施設の確保などの開設準備を行った。令和5年7月28日に、日本看護協会に当該教育課程の教育機関申請を行い、11月23日に教育機関として承認された。併せて、強制労働省に令和5年10月31日に特定行為研修指定研修機関の指定の申請を行い、令和6年2月22日に特定行為研修指定研修機関として承認された。

3. 入学試験説明会の開催

皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程の入学試験は令和5年11月26日に、開講は翌年4月を予定しており、受講生30名の募集を開始した。

入学説明会は、令和5年9月26日に、本学大講義室にて対面とzoomによるハイブリッドで開催した。参加者数は、対面28名、オンライン81名の計109名であった。

説明会の概要は、まず本学の特徴をセンター長の紺家より述べたあと、石井特任講師より皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程の概要の説明に加え、受験に備えてのアドバイスを行った。全体での質問等はなかったが、個別質問には14名の希望者があり、センター長紺家、特任准教授池田、特任講師石井で対応した。

4. 入学試験の実施および入学予定者の決定

令和5年11月26日（日）皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程（B課程）の入学試験を実施した。出願者数71名、受験者数69名、合格者は33名公表し4名辞退。1名補欠合格を追加し、合計30名を入学とした。出身地は石川県11名、富山県2名、福井県1名、北陸三県以外16名であった。

II. 認定看護師教育課程フォローアップ研修

1. 目的

看護キャリア支援センター開設 10 周年に際し、これまでとこれからの認定看護師の役割について改めて考える機会とする。

2. 日時・参加者

【日 時】 令和 5 年 11 月 3 日(金) 第 1 部 10:30～12:00 第 2 部 13:00～16:00

【参加者数】 第 1 部 170 名

第 2 部 感染管理分野 104 名

認知症看護分野 91 名、

3. 実施内容

第 1 部 特別講演会

テーマ：これまでとこれからの日本医療に応えるために深化する認定看護師とは

講 師：溝上 祐子（東京医療保健大学大学院 准教授、日本看護協会研修学校元課程長）

座 長：紺家 千津子（石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター長）

第 2 部 分野別研修会

【感染管理認定看護師の部】

○特別講演

テーマ：感染対策の最新の話題と感染管理認定看護師に期待する活動「

講 師：森兼 啓太（山形大学医学部附属病院 検査部・感染制御部部長）

座 長：谷渕 舞（社会福祉法人恩賜財団済生会 富山県済生会高岡病院）

生地あゆみ（市立池田病院）

○活動報告

シンポジスト：

4 期生 小谷口みさき（医療法人社団 和楽仁 芳珠記念病院）

3 期生 生地 あゆみ（市立池田病院）

1 期生 今江 利香（一般財団法人 日本バプテスト連盟医療団 日本バプテスト病院）

座 長：坂本 信彰（医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院）

井口 聡子（国家公務員共済組合連合会 北陸病院）

○森兼 啓太先生との座談会

座 長：坂本 信彰（医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院）

井口 聡子（国家公務員共済組合連合会 北陸病院）

【認知症看護認定看護師の部】

○特別講演

テーマ：認知症の人と暮らす生き方の支援～認知症基本法から考える～

講 師：川島 和代（石川県立看護大学 学部長）

座 長：和泉 唯（国家公務員共済組合連合会 北陸病院）

福田 人味（医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院）

○シンポジウム：共生社会を目指す認知症看護認定看護師の現在地

シンポジスト

3期生 中山 和昭（かみいち総合病院）

2期生 木谷 陽子（京都市立病院）

1期生 畔田 早苗（済生会富山病院）

座長：秋田 和賀子（白山石川医療企業団 公立つるぎ病院）

島 真理子（石川県立こころの病院）

4. 評価

今年度は石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター創立10周年の節目を迎えた。看護キャリア支援センターの認定看護師ならびに認定看護管理者教育課程の修了生だけでなく、様々な分野の認定看護師にむけて発信できる講義内容となることを意図し、長年にわたり日本看護協会研修学校で認定看護師教育に携わった溝上祐子先生の講演会を実施した。これまでとこれからの認定看護師の役割の深化についての講演で、オンラインの参加者も併せて170名余の参加が得られた。

認定看護師制度が変化し、特定行為研修を受講する看護師も増加する中で、修了生の中には自己のキャリアアップに悩んでいる者もいた様子だったが、「認定を取って終わりではなく、今後どう活用するのか、どう成長していくかを考えさせられた」「認定看護師の立ち位置が再確認できとても興味深い内容だった」「これからは病院だけに留まらず、地域での活動にも参加して行く必要があることを改めて感した。」などの意見が多くあり、修了生にとって大きなエールになった。

第2部は感染管理と認知症看護の分野別に分かれて、それぞれ講演会とシンポジウムを行った。

感染管理分野は、対面のみでの研修だったが104名の参加があった。シンポジウムに加えて講演をいただいた、森兼啓太先生を囲んで、日頃の悩みや感染管理の今後について座談会を実施することができ、活発な意見交換がされた。特定行為研修制度や地域との連携など、変わりゆく時代の流れを見極めながら認定看護師としての役割を自身の中で明確にして歩み続ける決意を新たにしました。

認知症看護分野は、対面とオンラインとのハイブリッドで実施した。一貫したテーマとして「誰もが暮らしやすい希望ある共生社会実現のために」を掲げて、講演会、シンポジウムを行うことができ、認知症の方々の見えない認識を可視化し、最後まで人としてかわり続けることの大切さを皆で分かち合うことができたとの意見が多くあった。

今年度は、昨年度の評価を活かした時間配分で、分野ごとの自主性を生かした運営を行うことができた。また看護キャリア支援センター開設10周年を記念した特別講演も兼ねることができた。

5. 今後の課題

感染管理6期、認定証看護3期にわたる教育課程を実施し、現在はいずれも一旦閉講して次年度から開講予定の皮膚・排泄ケア分野の特定行為研修を含んだ新たな認定看護師教育課程を準備中である。教育分野が多くなり、修了生の人数も多くなってきており、フォローアップ研修へのニーズも修了年次によって変化している。また修了後どこまでフォローが必要かという観点から今後の運営について修了生の意見を聞きながら変革していく時期を迎えた。

認知症分野は、できる限り同様の形で3期全体で継続したい意向がある。感染管理分野は、1期生が終了してすでに10年経過しているため分野全体でのフォローアップは不要と考え、各期に応じて自主的な学習会を企画したい意向である。

センターとしては、開催においては場所の配慮や備品の使用などできる範囲で相談に応じながら対応していく。

Ⅲ. 専門的看護実践力研修事業「看護管理者研修」

1. 目的

地域包括ケア時代における看護管理者の役割を果たすうえでの知識を修得し、自らの行動を明確にする。

2. 定員および研修方法

定 員：40名（副看護師長以上もしくは同等の職位にある看護職）

研修方法：1～3日目：会議ソフト「Zoom」によるオンライン講習、4日目(最終日)：集合研修

3. 実施状況

参加者：65名（石川県内全域の病院、訪問看護ステーション、老人保健施設と長野県から1名）

受講者の背景：

看護師経験年数：平均22.9年

職 位：看護部長（管理者）6名、看護師長21名、副看護師長・主任等38

施設別：病院57名、訪問看護ステーション5名、介護系施設その他3名。

4. 実施内容

令和5年11月17日（金）・18日（土）・24日（金）・25日（土）に開催した。初めの3日間をオンラインで、最終日を集合で研修を行った。

表1. 研修日程と内容

月日	時間	テーマ・内容	講師名（敬称略）
11/17（金）	10：00～	受講方法についてのオリエンテーション	
		開講式	石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター センター長 紺家 千津子
	11：00～11：40	石川県の看護の状況	石川県健康福祉部医療対策課 高山 次代
	13：00～15：30	地域包括時代における看護管理とリーダーシップ①	石川県立看護大 学名誉教授 丸岡 直子
11/18（土）	9：00～12：00	地域包括時代における看護管理とリーダーシップ②	石川県立看護大学 名誉教授 丸岡 直子
	13：00～15：30	看護管理者のための病院（病棟）経営・データを活用した看護管理	滋賀県立総合病院 院長補佐兼看護部長 西村 路子
11/24（金）	9：00～12：00	看護師の働き方を支えるための基礎知識	加藤社労士弁護士事務所 加藤 明子
	13：00～15：30	組織の課題達成にむけて —組織分析の意義と手法—	独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター 看護部長 藤田 恵子

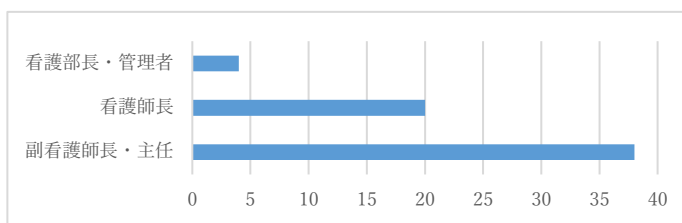
11/25 (土)	9:30~11:45	看護管理者としての能力開発	石川県立看護大学 名誉教授 丸岡 直子
	12:45~15:30	組織における倫理的課題	常磐大学 教授 吉田 千文
	15:30~15:45	アンケート/閉校式	石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター センター長 紺家 千津子

5. 評価及び今後の課題

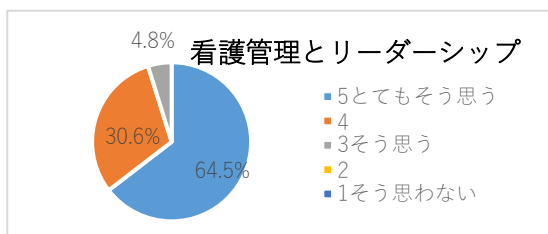
1) 受講生のアンケートによる評価

■参加者の職位 (人)

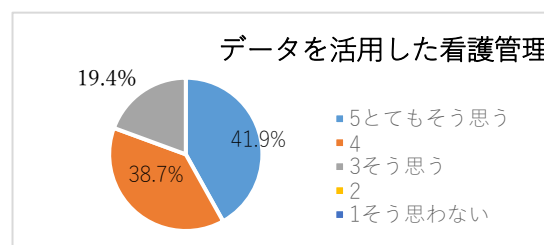
1. 副看護師長または主任	38
2. 看護師長	20
3. 看護部長または管理者	4
	62



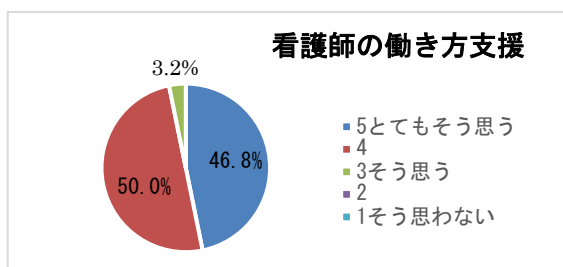
■看護管理とリーダーシップについて理解できた



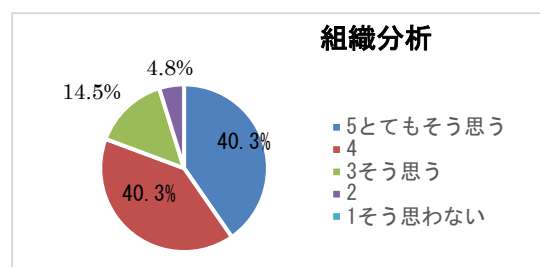
■データを活用した看護管理について理解で



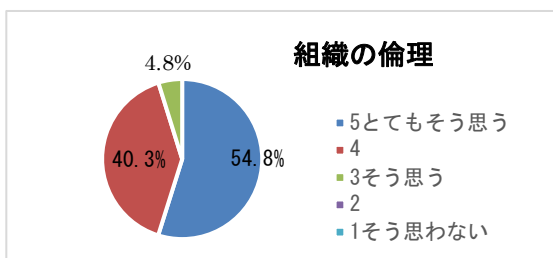
■看護師の働き方支援について理解できた



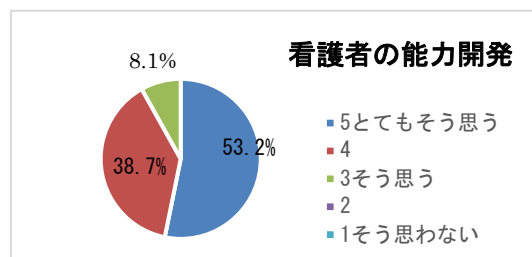
■課題達成のための組織分析について理解で



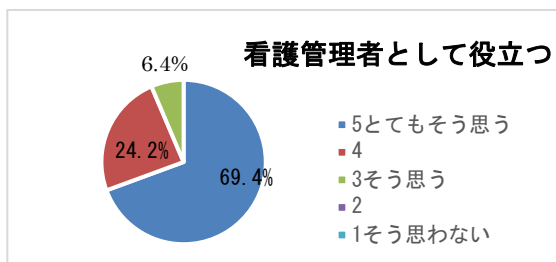
■組織における倫理について理解できた



■看護管理者の能力開発について理解できた



■研修は看護管理者として役立つ



■研修の学び（研修生自由記載）

- ・内容を消化するまでには 時間がかかりそうですが 資料を何度も見返して 理解を深めたいと思います。
- ・それぞれの講義の中で自分にとって心に残ることがあり、今後に生かせたらと思います。
- ・とても勉強になりました。実践に活かしていける目と心を養えたと思います。
- ・どの講義も基本を丁寧にお話ししていただき、理解しやすかったです。他施設の方と話す機会にもなり、リフレッシュ、そしてエネルギーを貰うことができました。
- ・組織分析が難しく、なかなか理解できなかった。労務管理、データ活用、知らない事ばかりでした。得た知識を、実践にあわせて活用していきたいです。
- ・様々な講義を研修し、自部署の師長が対応している姿が思い浮かびました。追いかける姿を見、今日からマネジメント始めたいと思った。
- ・主査になって2年目で管理者として、スタッフに関わればよいのか悩むことが多く、今研修をとおして、しなくてはいけないことについて管理者としてすべきことについて学ぶ機会となりました。実践知や経験を振り返り、今後につなげていけるようにしていきたいです。四日間楽しかったです。ありがとうございました
- ・初めての内容で、講義の内容は分かりましたが、実践の場で活用出来るかどうかは何とも言えませんが、振り返りをしながら生かせる様にしていきたいと思います。
- ・盛りだくさんの内容を短時間でご講義するのは本当に大変だと思います。ありがとうございました。自分はまだまだ管理経験が浅いので、難しかったところも多かったですが、学びを活かせるようにプラス思考で頑張っていきたいと思います。
- ・全ての授業において簡潔にわかりやすく初心に戻り看護は素晴らしいと再確認ができました。学びは大きかったです。
- ・看護管理とは？と、ぼやっとした理解であったが今の自分に足りない学習、すぐ使える技法を学べた。あと、プレイヤーではなく、リーダー、マネジャーとして仕事する覚悟も必要だなと。ありがとうございました。
- ・看護管理について、漠然としていたところが多かったですが、研修を通して、少しイメージがつかえました。また自分自身がどのようなマネジメントをしているのか、見直すきっかけになりました。
- ・管理についてもっと難しく考えていましたが、私がいつも行っていることも管理の一つと知り、今回学んだことを活かしてさらにより良い病棟運営や管理を行っていけたらと思います。ありがとうございました
- ・現場に戻り、経験学習を活かして自分のマネジメントにつなげたいと思います。ありがとうございました
- ・講師の先生方の非常に分かり易い講義でスムーズに頭に入ってきました。感謝します。

- ・今までの管理の振り返りができた。
- ・データ活用して目標設定や評価などに活用できらようになりたいです。
- ・データ管理については、もう少し時間をかけて学びたかったですが、自部署であてはめて考えることで、深めて行きたいと思います。
- ・管理をする立場としてデータを活用し適切に分析できるスキルは必須だがとても苦手なところなので復習し少しでも自分のものにできたらと思います。
- ・管理者としての自信になります。対面でみなさんとお話できたこともよかったです。
- ・久しぶりに集合研修に参加し活力がみなぎりました！自分の思いを話したり他の人の話を聞くことでチャレンジしたいことが見つかりました。頑張ります！
- ・管理のスキルは全くなく、またなり立てで情熱だけで行っていました。今回の研修の学びで沢山気持ち的に助けられました。活かして更に学びを深めて前に進んで行きたいと思います
- ・グループワークで話し合うことができてとても有意義な研修でした。
- ・グループワークの時間がもう少しとれると、他の方と話せてよかったです。
- ・最終日のグループワークを通し、日々の看護管理の振り返りと学びに繋がった。

〈研修へのご意見〉

- ・今後は是非、自分達よりさらに上の管理者とのやりとりで理解してもらえそうな関わりはもう少しいいかということも研修に入れて貰いたいと思いました。
- ・zoom では先生がずっとお話しされていることに申し訳なく感じています。やはり、最終日に顔をみてお話しすることで、先生の思いがダイレクトに伝わりました。
- ・対面もやはり学びが深くよかったです。
- ・来年度からはぜひ zoom ではなく、直接ご指導ご講義して下さると嬉しく思います。
- ・最終日は対面の研修でしか得られない学びがあり有意義な時間となりました。
- ・これからも最終日対面で、他 zoom 研修が良いです
- ・Web も取り入れた研修なので、4日間あっても受けやすかったと思います。
- ・昇格、昇任した人の不安を軽減できるように、もっと早い時期にこの研修があるといい
- ・春頃がよいと思います。基本ズームで1日対面が良かったです

2) 全体的な評価

今年度は、1日だけ対面の研修を取り入れた。研修生からは非常に好評で、オンラインと対面を組み合わせた研修として工夫することも効果的だとわかった。

ファーストレベルの研修前の方や、長年研修から離れている方のブラッシュアップなど研修の動機は様々で、今後も継続していくニーズを感じた。

V. 専門的看護実践力研修「分野別実践看護師養成研修：皮膚・排泄ケア研修」

1. 目的・目標

【目的】

皮膚・排泄ケア看護に関する専門的知識、技術を身に付け、看護実践力の向上を図る。

【目標】

皮膚・排泄ケア看護に関する基本を踏まえ、エビデンスのあるケアを実践するための知識と技術を理解する。さらに、自施設におけるスキンケアの管理状況より、解決策を考えることができる。

2. 実施状況

石川県をはじめとする 9 県 43 施設から 55 名受講した。受講者の所属施設は、病院 50 名、訪問看護ステーション 2 名、介護系施設 2 名であった。所属施設の所在地は、石川県 43 名、富山県 3 名、福井県 2 名、東京都 2 名、その他に岩手県、福島県、新潟県、滋賀県、大阪府からそれぞれ 1 名だった。

3. 実施内容

令和 5 年 9 月 10 日（日）・9 月 15 日（金）・9 月 16 日（土）・9 月 18 日（月）の計 4 日間、ストーマ・創傷・失禁ケアの 3 分野に関して、オンラインにてグループワークを交えながら実施した（表 1）。

表 1. 令和 5 年度 研修プログラム

日時	分野	科目・講師
9 月 10 日（日）		
9:25～9:55		看護の動向について 石川県健康福祉部 医療対策課 管理・看護グループ 係主査 高山 次代
10:00～10:55	Wound	褥瘡のリスクアセスメント 福井医療大学 保健医療学部 看護学科 教授 北川 敦子
11:00～11:55		体圧管理 久藤総合病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 山田 ゆかり
13:00～13:55		MDRPU(医療関連機器圧迫創傷) 金沢医療センター 皮膚・排泄ケア認定看護師 尾西 恵理
14:00～14:55		創傷治癒と DESIGN-R2020 石川県立看護大学 教授 紺家 千津子
15:00～15:55		スキンケアとドレッシング材の選択 JCHO 金沢病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 山下 美樹
9 月 15 日（金）		
9:00～9:55	Wound	スキン-ケア 石川県立看護大学 附属看護キャリア支援センター 特任講師 皮膚・排泄ケア認定看護師 石井 光子
10:00～10:55		下肢の潰瘍のケア 金城大学 看護学部 特任講師 皮膚・排泄ケア認定看護師 遠藤 瑞穂
11:00～11:55		糖尿病のフットケア 金沢大学 医薬保健研究域保健学系 教授 大江 真琴
13:00～13:55		褥瘡の栄養管理 石川県立看護大学 共同研究講座 准教授 長谷川 陽子
14:00～14:55		褥瘡のリハビリテーション 一般社団法人オーディナリーライフ 理学療法士 神野 俊介
15:00～15:55		褥瘡の外科的・物理的療法 金沢医科大学 名誉教授 南ヶ丘病院 院長 川上 重彦

9月16日(土)		
9:00~9:55	Ostomy	消化器ストーマと術後管理 金沢医科大学 一般・消化器外科学准教授 藤田 秀人
10:00~10:55		ストーマケアの基礎 石川県立看護大学 附属看護キャリア支援センター 特任講師 皮膚・排泄ケア認定看護師 石井 光子
11:00~11:55	Ostomy	ストーマ周囲皮膚障害のスキンケア 金沢大学附属病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 山田 清美
13:00~13:55	Wound/ Ostomy/ Continenence	ケア相談・これまでの復習 皮膚・排泄ケア認定看護師 紺家 千津子、山田 清美、石井 光子
14:00~14:55	Ostomy	瘻孔管理 小川医院 院長 小川 滋彦
15:00~15:55	Wound/ Ostomy	がん薬物療法時のスキンケア 公立小松大学 保健医療学部 看護学科 教授 松井 優子
9月18日(月・祝)		
9:00~9:55	Ostomy/ Continenence	泌尿器ストーマと失禁の管理 金沢医科大学 氷見市民病院 泌尿器科 教授 森山 学
10:00~10:55	Continenence	IAD(失禁関連皮膚炎)とスキンケア 金沢大学 医薬保健研究域保健学系 教授 大桑 麻由美
11:00~11:55	Continenence	失禁対策 金城大学 看護学部 特任講師, 皮膚・排泄ケア認定看護師 遠藤 瑞穂
13:00~14:10	Wound/ Continenence	褥瘡のケア計画 1 皮膚・排泄ケア認定看護師 尾西 恵理、遠藤 瑞穂、古川 きよみ、山下 美樹 山田 清美、山田 ゆかり、紺家 千津子、石井 光子
14:15~14:45		褥瘡のケア計画 2 皮膚・排泄ケア認定看護師 尾西 恵理、遠藤 瑞穂、古川 きよみ、山下 美樹 山田 清美、山田 ゆかり、紺家 千津子、石井 光子

4. 評価

1) 受講生のアンケートによる評価

受講者 55 名中 53 名から回答を得た。

(1) 研修全体に対する受講生の評価 (図 1)

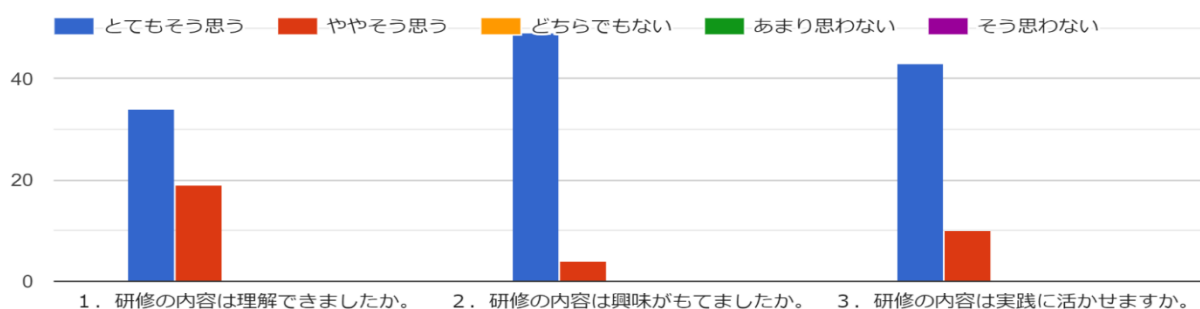


図 1. 研修全体に対する受講生の評価

(2) 創傷ケア分野に対する評価 (図 2)

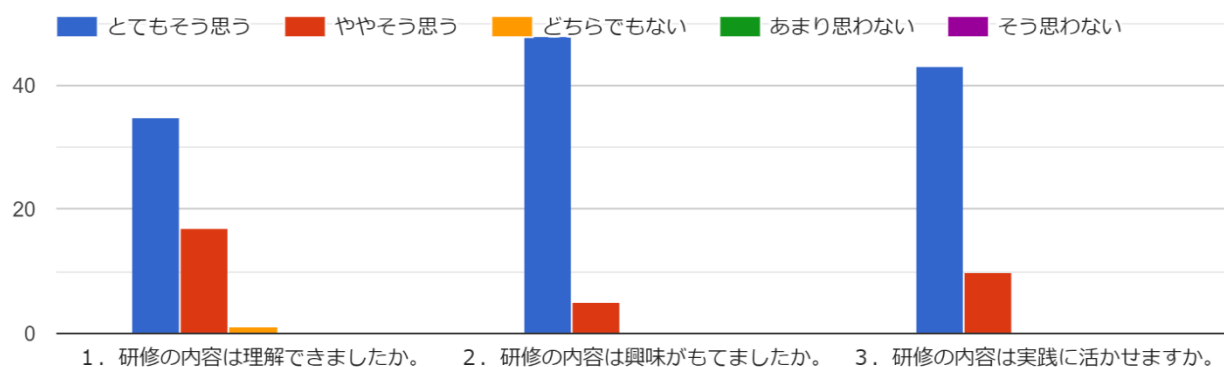


図 2. 創傷ケア分野に対する評価

(3) ストーマケア分野に対する評価 (図 3)

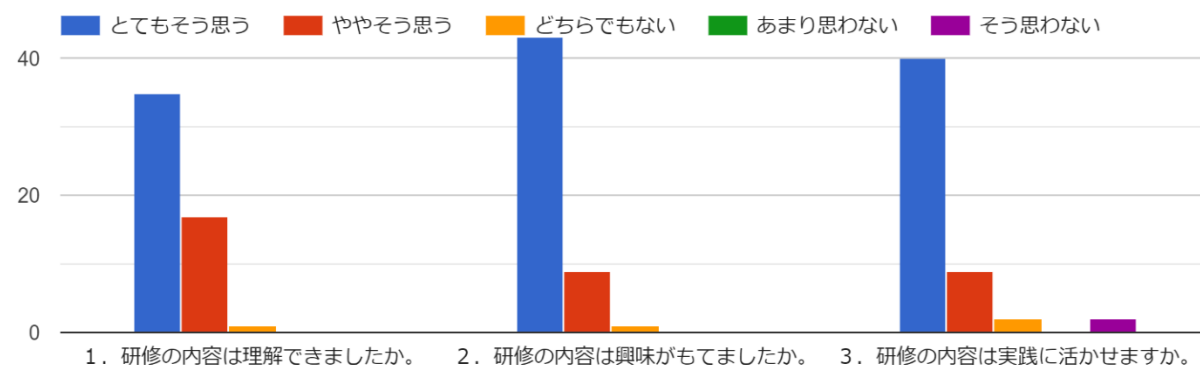


図 3. ストーマケア分野に対する評価

(4) 失禁ケア分野に対する評価 (図4)

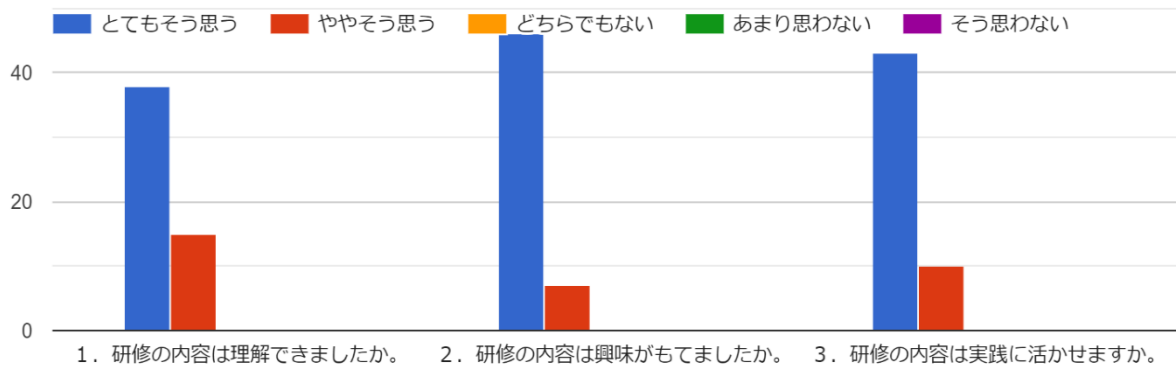


図4. 失禁ケア分野に対する評価

(5) オンライン講義の評価 (図5)

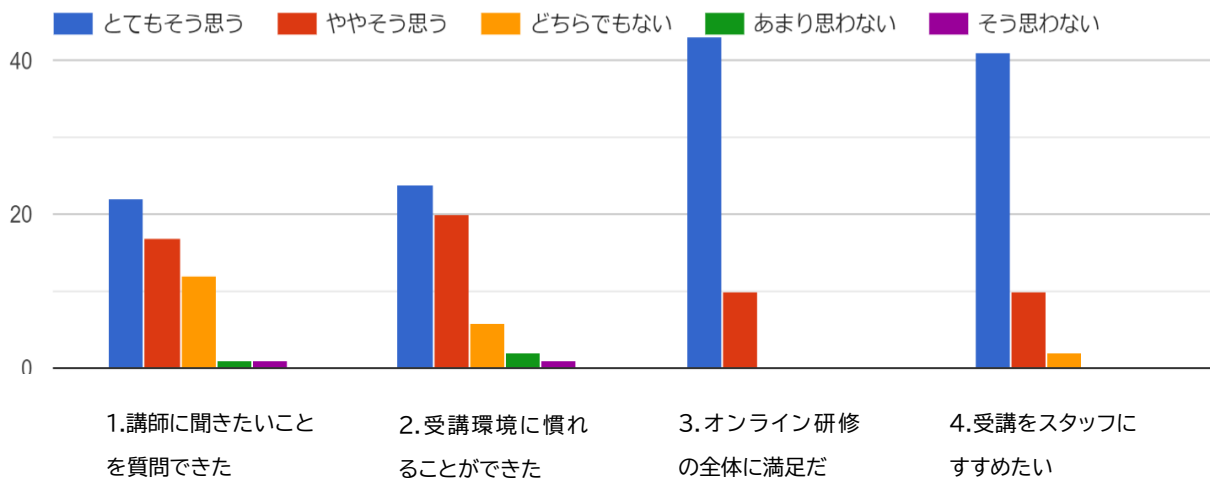


図5. オンライン講義の評価

(6) 受講した感想や学び (自由記載より抜粋)

- ・今まで知らなかったことがたくさん知れてとても充実した4日間でした。グループの皆さんともう少しお話したかったです。
- ・基礎的なことの再確認が出来たことや、新しい知識や情報を知ることができた。
- ・皮膚・排泄ケアは今後看護をしていく上で切り離せない分野となるので、今まで曖昧にしていたところも深く知ることができてよかったです。
- ・今回の研修を受講し皮膚・排泄ケアについて知識や興味が深まりました。
- ・色々な分野の難しいお話をわかりやすく講義していただき、退屈することなく受講できました！褥瘡委員としてこの講義を病棟に還元していけるよう頑張ります！
- ・実際の症例をもとに教えていただき分かりやすかったです
- ・数年前にも参加させていただいたのですが、新しい知識が増えており日々の学習の必要性を感じました。日々の看護実践に活用したいと思います。
- ・基礎的な勉強を行い研修に参加しましたがどの分野もとてもわかりやすくより知識を深める事ができました。実践で活用しやすい内容や自施設では経験できない症例や治療についても知ること

が出来とてもよい学びを得ることが出来ました。

- ・皮膚・排泄ケア認定看護師を目指しています。自分なりに日々勉強していたつもりでしたが、今回の研修でより深い知識を学ぶことができました。参加して本当に良かったです。グループワークとても楽しかったです。
- ・zoomでのグループワークが慣れなくて難しかったです、みなさんと話し合いもできてとても、勉強になりました。
- ・症例検討では講義内容を踏まえたケア方法を考えることができました。栄養管理や術式など臨床でなかなか質問できていないことも学ぶことができました。
- ・先生方の講義がわかりやすく楽しい4日間でした。皮膚排泄ケア看護師を目指したいです。
- ・訪問看護では、様々なケアをアセスメントしてチームとして実施していきます。そういう時に、最新を習ってきたよ。と紹介することができると思っています。事務所に帰って還元していきたいと思います。

(7) 研修方法等への感想やご意見

- ・オンラインでしたが、参加者の皆さんや講師の先生方の反応がわかったり、コミュニケーションがとれたりしたため、一方的な感じではなくって良かったです。
- ・チャットでも質問出来たので、質問しやすかったです
- ・オンラインなので、分かりづらいところがあったが、もう少し時間がとればよかったです。
- ・zoomでのグループワークは初めてで少し難しかった。
- ・オンラインでのグループワークが緊張してあまり発言できなかったです。
- ・資料を製本して送ってくださった事がとても良かったです。

2) 全体的な評価と課題

北陸3県外の受講者も多いことより、この分野の研修ニーズが高いといえる。オンライン開催については、グループワークに受講者が慣れないや、もう少しグループメンバーと話せる機会があればという要望がある。しかし、県外からの受講者も学習しやすい環境を考えるとオンライン開催が望まれる。そのため、次年度はアイスブレイクの時間を持つなど改善を検討する。

VI. 石川県看護教員現任研修

1. 目標

【看護教員対象】

看護教員として直面する教育方法・教育評価の課題に対して、課題の糸口を見出すことができることをねらいとして企画した。

【看護教員と実習指導者や実習指導に関心がある看護職員対象】

改正カリキュラムを展開する中で直面している課題に対して、課題の糸口を見出すことができることをねらいとして企画した。

2. 実施状況

研修日時	6/17 (土)	7/8 (土)	9/9 (土)	10/28 (土)
研修参加者数 (人)	24	10	59	31

3. 実施内容

【看護教員対象】

開催日	時間	研修テーマ	講師	開催場所
6/17 (土)	10:30 ~ 12:00	新しい教育評価の考え方(基礎編) 1)教育評価の変遷と課題 2)目標に準拠した評価の考え方と課題 3)真正の評価の考え方	石川県立看護大学 教授 石川 倫子	石川県立看護大学 地域ケア研修室
	13:00~ 14:30	日頃の教育評価の疑問に応えます! アンケート等	<ファシリテーター> 石川県立総合看護専門学校 教務主任 金田 明子	
	15:00		石川県立看護大学 助教 瀬戸 清華 助教 千田 明日香	

開催日	時間	研修テーマ	講師	開催場所
7/8 (土)	10:30 ~ 14:30	臨地実習指導における教員の役割 1. 臨地実習指導の課題 1)実習指導での課題を抽出する 2)課題解決の方法を見出す 2. 臨地実習指導方法の実際 1)みえる・ふれる・感じる 2)学生が語れる聞き方とは 3)学生が自己の経験を意味づけるための指導方法 3. 実習指導者と教員との連携	国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校 副学校長 西村 民子	石川県立看護大学 地域ケア研修室
	15:00	アンケート等	<ファシリテーター> 国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校 教員 坂本 泰子 教員 津田 朋恵	

【看護教員と実習指導者対象】

開催日	時間	研修テーマ	講師	開催場所
9/9 (土)	13:00~ 16:00	看護基礎教育に 「臨床判断モデル」を活用する ・「臨床判断モデル」とは ・改訂ポイントの読み解き ・看護基礎教育への活用の実際	聖路加国際大学 准教授 三浦 友里子 司会: 看護キャリア支援センター 池田 富三香 演習補助:寺井・田村・ 南條・瀬戸千田・中嶋	石川県立看護大学

開催日	時間	研修テーマ	講師	開催場所
10/28 (土)		人生 100 年時代の看護教育	<座長兼進行> 金沢医科大学 准教授 橋本 智恵 石川県立総合看護専門学校 副学校長 越野 まゆみ	石川県立 看護大学
	10:00 ～12:00	【第Ⅰ部】 <シンポジウム> 高齢者の<生活>をみつめる 病院、CNS の立場から 在宅の立場から 教員の立場から	<シンポジスト> 千木病院 看護部長 高田 千嘉 白山鶴来訪問看護ステーション 管理者 澤 久美子 石川県立看護大学 准教授 中道 淳子	
	13:00 ～14:30	【第Ⅱ部】 <講義> 人生 100 年時代の超高齢社会に求 められる看護教育	石川県立看護大学 学部長 川島和代	
	15:00	アンケート	演習補助:大橋・近藤・宮本	

4. 評価

1) 受講者の学びから (一部)

(1) 看護教員対象

- ・評価とは何か、評定の違いや、考え方の基礎を学ぶことができました。他学校との意見交換により、より広い視点に気づくことができました。(教育方法や環境の違い)
- ・学生が少しでも学べるような評価を行えるように考えていきたい。日頃の自分の授業の後の振り返りも評価であると言われてとても嬉しかった。
- ・評価は学生を伸ばすためにある。自分で主体的に学び続ける人作りをしたい。そのためには”わかるとできる”という自己効力感を高める授業作りをすること、そのために評価を活用することだと感じました。
- ・目標と指導と評価の一体で、学生に何を伝えたいかという目標をしっかりとぶれないようにすること。真正の評価に少しでも近づける視点で学生に関わっていきたい。
- ・授業を行う上でその内容を自分で決めるときの大切な点を学びました。評価することでブラッシュアップさせて、日々成長していくことで教育に貢献していけたらと思います。
- ・到達度評価とルーブリックを混同していたことが大きな学びでした。
- ・学生に対する形成的評価にズレがあったのかもしれないと分かった。教員同士や学生とのコミュ

ニケーションを密にし、率直に振り返ることができるとう適切な評価や評定につながっていくのかなと学べた。

- ・実習での評価をしていく上で指導者と学生と密にコミュニケーションをとっていくことが大切だと学んだ。また今後授業を行っていく上での形成的評価、何を学ばせたいかを明確にすること、テストの問題の配分など参考になりました。研修に参加し日頃の疑問が少し解消されました。ありがとうございます。
- ・評価のイメージが最初は評定になっていた（どこまで理解・習得しているかをはかるもの）が、評価はあくまでも学生中心で学生の学びと育ちの状況を見るものであること、次にどうつなげるかを考えるものであると意識が変化しました。また、その中で教員としてどのような学生を育てたいか教材観や教育観も問われているなど感じました。
- ・看護教員として、経験年数が多くなる中で評定を重視していたことに気がつきました。また、形成的評価が十分にできていないこともわかったので日々の学生との関りを大切にして評価していきたいと思いました。
- ・評価を行う中で、学生を無意識的に比較し点数化していることに気づいた。看護において実践できる能力を身につけているかのパフォーマンス評価が主になることも多いため、学生1人1人の能力を適正に評価していけるよう自身が教材研究を十分に行い到達度学生の望む姿を明確にしていきたいと考えます。
- ・たくさんの文献をご紹介いただいてまた自分で後でみてみようと思えました。知らない内容も多かったです。何となく聞いたことのある言葉についても改めて教えていただけるとこれまでを見直すことができました。
- ・学生がみている世界を一緒にみていたつもり・・・になっていないか？と自身を改めて振り返る機会になりました。
- ・教員自身のリフレクション、教師の学習的雰囲気、指導者と患者の理解について、学生の状況について共有することが大切と学びました
- ・実習での教員の役割とリフレクションの必要性を学びました。現在行っている実習でもリフレクションを行い自身の教員としての言動はどうなのか、看護観や倫理観は反映されているのか、学生の学びはどうなっているのか振り返りたいと思います。
- ・学生とともに看護を学ぶ楽しさを思い出し、これからも成長していきたいです。
- ・教員の経験のある方、新人の方と経験を共有でき話し合っって講義の内容をさらに深められた。活用できるスキルをいただけた

(2) 看護教員と実習指導者対象

- ・対象が患者のみならず臨床の現場では組織の中でもずれに悩むことがある。私自信を含めイメージの能力を高め1回1回のかかわりを振り返り相手を尊重した教育やケアができること、そしてその方（患者やスタッフ）の意思を引き出すことの大切さを再認識できた。
- ・これからの人材育成において考える力をつける、語る時間をつくる。人の感性を刺激することや持てる力を信じるのが大切だと認識しました。川島先生のエネルギーに触れられて幸せでした。求めていた以上でした。これからも頑張ります。
- ・訪問ステーションの事例をもとに受け持ち療養者の過去→現在→未来だけでなく、介護者の過去→現在→未来、その人の価値など家族のことも総合的に理解することが大切であると改めて学ばされた。川島先生の講義から人の体を生活からみる視点の大切さを強く学ばされた。
- ・急性期病院で認知症ケアを実践しています。役割として現場での認知症ケアをカンファレンスや研修をとおして指導しているのですが、大切なのは知識と技術といった当たり前のことだけでなくイメージすることが大切だと改めて実感しました

- ・多くの学びがありうまく表現できませんが看護の本質に触れる時間を過ごすことができた。
- ・すべてを次世代につなげたい、自身のことばで。
- ・学生に伝える前に教員としてどういった姿をみせられるかが問われた気持ちです。今日の研修内容を自身にどう活かすかをしっかりと考えたい。
- ・相手の像を描ける、再認識しました。
- ・学生が高齢者に悪いイメージを抱かず持っている力がいっぱいあること、できること、意欲を高める関わりがあることを共に知り学んでいきたい。
- ・転院前日に受け持ちNsであったため転院の話をしました。すると当日9時にNsコールあり「きがえさせてくれ」といわれました。わかる説明をすれば理解できるし覚悟ができることを共有していきたいです。
- ・ナイチンゲールのすごさ、100年時代を自分が受け止められていなかったのが受け入れNsとしてできることを考えようと思いました。

2) 全体評価

看護教員として直面する教育評価の課題、改正カリキュラムを展開する中で直面している課題に対して、課題解決の糸口を見つける機会になったのではないかと考える。研修では、互いの知恵から学び合うことができ、目標は達成できたと考える。

5. 今後の課題

改正カリキュラムの課題については、地域・在宅看護論がある。引き続き、研修を企画する必要がある。また、年明けとともに能登半島地震が発災した。看護学生とともに被災地域、被災者への支援を続ける中で、災害看護とは何かを学びあう必要がある。



6/17(土) 研修の様子 (グループワーク)



9/9(土)講義の様子 (聖路加国際大学 三浦友里子准教授)



10/28(土)シンポジウムの様子

IX. 地域貢献

1. 各機関からの依頼による派遣事業

氏名	テーマ	主催者名	場所・機関	年月（西暦）
池田富三香	講義：安全管理研修 ヒヤリハット事故報告について	医療法人社団映寿会 介護保険サービス事業所	医療法人社団 映寿会病院	2023.9.20
池田富三香	講義：認定看護管理者教育課程 ファーストレベル 人材育成の基礎知識	石川県看護協会	石川県看護協会	2023.10.26 10.30
池田富三香	研修：2023 マネジメント塾 in 南加賀(1) 日々の看護に潜むマネジメント	石川県看護協会南加賀地区	小松市民病院	2023.10.21
池田富三香	研修：2023 マネジメント塾 in 南加賀(2) 認知的ケチからの克服	石川県看護協会南加賀地区	小松市民病院	2023.12.16
池田富三香	研修：2023 マネジメント塾 in 南加賀(3) 振り返ってみよう私の役割支援	石川県看護協会南加賀地区	小松市民病院	2024.3.2